

学校教育目標		一生懸命がすばらしい～夢と志を抱き、仲間とともに主体的に生きる子どもの育成～	
a ミッション	●伝統により一層の磨きをかけ、安心と活力のある学校づくりを推進し、地域・保護者に信頼される学校の創造	a ビジョン	●夢や志を抱き、自己肯定感を持って仲間と力を合わせて主体的に学ぶ生徒 ●生徒の夢の実現を後押しできる専門性と人間性を兼ね備えた教職員 ●挨拶・歓声・歌声は響き渡り、生徒・保護者・地域が自慢でき誇りたくなる学校

尾道市立栗原中学校

評価計画					自己評価				学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
学力の向上	意欲を持ち、学習に主体的に取り組む生徒を育てる。	①課題発見・解決学習を通して主体的に学習に取り組ませる。 ②自己肯定感・達成感を持たせる授業改善を行う。 ③基礎・基本を確実に定着させる。	①「主体的な学び」に関する生徒アンケートの肯定的回答 イ記述式問題における無答率とB判定以上の生徒の割合 ②自己肯定感に関する生徒アンケートの肯定的回答 ③確認テストにおける得点率30%未満の生徒の割合	①ア 80%以上 イ B判定 60%以上 無答率 10%以下 ② 70%以上 ③前回調査比10ポイント削減	①ア 69.8% イ B判定 57% 無答率 18% ② 69.6% ③ 25%	①ア 65.9% イ B判定 50.5% 無答率 17.3% ② 73.9% ③ 17.5%	①ア 82.3% イ B判定 84% 無答率 -7.3% ② 105.6% ③25ポイント超過	B	①ア 「課題の設定」「情報の収集」「整理分析」「まとめ・創造・表現」「実行」「振り返り」について質問紙調査を行った。引き続き「情報収集」に関する肯定的評価が低いので、今後ICTを活用し情報収集を仕組んでいく。 イ 本校の生徒実態の集大成として、第3学年を対象として集計を行っている。また、準正答以上をB判定以上としてとらえている。無答率が高いが、200字以内の作文問題における無答率は0であった。 ② 「自分には、よいところがあります。」という質問に対して、全学年の肯定的回答を集計している。前回調査よりも数値が向上している。 ③ ①イと同様に第3学年を調査対象としている。目標は達成できなかったものの、得点率30%未満の生徒数は減少している。進路に向けて学習意欲の向上と、学力の定着が見られる。	○		生徒の自己評価アンケートでは、実態を正確につかみにくい面もあると考える。 学力の向上については他校との比較や全体的なレベルアップが必要だと思う。 生徒アンケートを実施し、それを有効活用して色々な工夫をされている。	・日常の授業の中で、生徒自身が達成度を確認できるような取り組みも行うと良いというアドバイスをいただいている。単元を通じた評価基準の設定などを行い、生徒と共有する等の改善を考えていきたい。 ・ICTの活用を、目的にするのではなく、あくまで学力向上につなげていく手段であるという意識を持って授業改善を行っているよう、校内研修を実施する。	
豊かな心の育成	思いやりを持ち自他を大切にするとともに、目標を持ち一生懸命(主体的・協力的)に活動する生徒を育てる。	①自己指導能力の育成を図る。 ②いじめを生まない望ましい学級・学年集団づくりを行う。 ③生徒会活動・部活動の活性化	①生徒アンケートの「自分たちの力で決まりを守り、活動しています」の肯定的評価 ②生徒アンケートの「自分のクラスは楽しいです」の肯定的評価 ③(1)より良い校風創りに向け、教職員と生徒会執行部による定例会の開催。 (2)保護者アンケート「栗原中学校の生徒は、部活動に意欲的に参加している」の肯定的評価	①85%以上 ②90%以上 ③(1)月に1回実施(2)85%以上	① 81.9% ② 86% ③(1)毎月第4水曜日に実施(2)80.6%	① 81.8% ② 84.0% ③(1)毎月第4水曜日に実施(2)83.7%	① 96.2% ② 93.3% ③(1)実施率100%(2)98.4%	B	①5年生は肯定的評価が87.1%と目標値を上回っている。しかし、1年生は79.8%、2年生は79.1%と目標値を下回っている。3年生は、その他の項目においても肯定的評価が1、2年生と比較して高く、高校受験に向けて、落ち着いた生活が送れている。今後は、生徒会活動が生徒の主体的な活動になるよう工夫し、自己指導能力の育成につなげることが必要である。 ②全ての学年において肯定的評価が目標値を下回っている。(1年生87.7%、2年生84.5%、3年生79.2%)2学期は、ミニ体育大会や文化祭を通して、学年や学級の団結力が高まるよう集団づくりに取り組んだ。競技種目や練習時間に制限はあったが、生徒の真剣に取り組む姿を見ることができた。今後は、行事等を通して、友達の良さに気づけるような事後指導を仕組んでいくことが必要である。 ③(1)毎週第3水曜日に生徒指導部会を開催し、各学年の情報共有を行い、学校の実態把握に努めた。また、学校の実態を踏まえた生活目標を設定し、生徒会執行部による定例会を開き、委員会活動に統一性を出せるようにした。 ④(2)2年生の肯定的評価は86%、3年生は87.1%と目標値を上回っている。しかし、1年生は79.1%と目標値を下回っている。3年生においては、前回の66.6%から大きく向上している。これは、南部大会やコンクールへ参加し、活躍の場ができたことが要因として考えられる。1、2年生においては、前回より肯定的評価が減少していることから、目標設定の見直しや新入生対象オープンスクールの部活動紹介など、部長会を通じた取組を工夫し、意欲の向上につなげることが必要である。	○		「自分のクラスは楽しいです」については、学校生活は楽しいことばかりではなく、学習には労力が必要であることから、「楽しい」のキーワードが、安易に「ラク」や「ノリのおもしろさ」と受け止められると趣旨と違ってくる。労力をかけても、それに見合う達成感・満足感があることや、学校に自分の居場所があることが大切。 保護者アンケートの中で「学校はおちついていて数字がずっと低いように思います。コロナの影響で直接見るとい事が出来ないで人の話で判断している所はあると思いますがもう少し落ち着けばいいと思います。 豊かな心の育成のために、各種取組に努力されていると思います。	・生徒アンケートの質問項目を精査し、学級・学年集団に対する実態が把握できるようにしていく。 ・保護者アンケート「学校は落ち着いている」の肯定的評価は、他の質問項目と比較して数値が低くなっている。感染症の影響もあり、学校の様子を参観する機会が減ったことが原因として考えられる。今後も情勢によっては、学校行事などの中止が想定されるが、生徒の頑張っている姿が保護者や地域の方に伝わるような地域貢献活動やボランティア活動などを仕組んでいく。 ・生徒会執行部による定例会を引き続き開催し、生徒自ら学校の課題を考える場を設けていく。また、学校行事、委員会活動、部活動などの掲示物を充実させ、生徒がお互いの良さに気づける温かい学校の雰囲気づくりをすすめていく。	
魅力的な学校づくりの推進	生徒が栗原中学校に愛着と誇りを持ち、地域や保護者から信頼される学校づくりを行う。	①教員の授業力向上 ②学校だよりHPを定期的に更新し、学校の情報発信していく。	①(1)各教科年1回以上の授業研究の実施 (2)生徒アンケートの「授業がよくわかります」の肯定的評価 ②月に1回以上学校だよりを発行し、HPを更新する。	①(1)100% (2)80%以上 ②100%	①(1)未実施(2)87.7% ②たより75% HP37回	①(1)100% (2)86.1% ②たより80% HP更新61回	①(1)100% (2)107.6% ②たより80% HP100%	B	①(1)2月1日現在で、授業研究を行った教員の割合は50%となっている。中には教科の特性もあり、実施が難しい教科もあるが3学期中に全員が研究授業の実施を行い、今年度の取り組みの成果をしっかりと把握していく必要がある。 (2)生徒アンケートでは肯定的な評価が目標値を上回っており、各先生方が工夫をしながら授業を行っていることがわかる。ただし、定期試験や学力調査などの数値は低く、今後はその授業の質をさらに向上させていく必要があると思う。 ②学校だよりやHPなどを定期的に更新し、学校の情報を発信している。今年度は、2学期から生徒会の広報委員会で作った内容をHPに掲載する取り組みを行った。生徒からの発信を行うことで、自分たちの学校の良さについて考えることができるきっかけになったと思う。今後は生徒が主体となる取り組みを行っていきたい。	○		今年度は、新型コロナウイルスへの対応のため、研修の実施が難しかった面があることは理解できる。 評価は適切です。 栗原中学校の様子がわかるので大変良いと思います。	・生徒アンケートの結果から、授業力向上についてはしっかりと行うことができた。しかし、今年度は実施計画を明確に立てることができず、研究授業については実施がかなり遅くなってしまった。来年度は、新学習指導要領の施行に伴い、育てたい資質・能力や評価計画をしっかりと立てていく必要がある。 ・学校便りの発行やHPの更新によって、学校の情報を積極的に発信することができた。また、生徒会の活動で生徒達から学校の情報を発信したりする活動も行っているため、来年度も継続的に行っていくだけでなく、いろんな形で生徒が頑張っている姿を発信していきたい。	
教職員の働き方改革の推進	職員全体が意識を持って取り組み、個々の教職員が業務改善に積極的に取り組む。	①働き方改革の意識向上 ②超過勤務時間の削減	①働き方改革アンケート肯定的評価 ②超過勤務45時間未満の完全実施	①80%以上 ②100%	①90.9% ②65.6%	①80.0% ②54.9%	①100.0% ②54.9%	B	①尾道市教育委員会による職員を対象とした働き方改革アンケートの10項目すべてが前回から下がったが、肯定的評価の目標値80%と同等の結果となった。「業務への充実感」や、「担当業務への管理職の理解」「アイデアへの管理職の支援」は90%を超えている反面、新型コロナウイルス対策のために多くの行事や取組が制限されたため「教育目標達成への参画」が68.2%と低く課題である。 ②超過勤務45時間未満の割合は、8月からの1月までの6か月間では平均54.9%であり、新型コロナウイルス対策と新しい生活様式に対応したより一層の意識改革が求められる。	○		今年度は、新型コロナウイルスへの対応のため、負荷が大きかったと考えられる。 評価は適切です。 先生方の職場環境の改善は最優先で取り組んでください。	・各職員の業務分担上、実践上の工夫やノウハウを実務のポイントとして交流できる仕組みを作る。 ・学力の向上、豊かな心の育成の指導上必要な情報が、今年度導入の統合型校務支援システムを活用することで互いに共有できるような仕組みの充実を進めるとともに、活用の研修を実施する。 ・その時々状況に応じた新型コロナウイルスへの対応を判断しながら、環境改善に努めるとともに、意欲、充実感を大切にすることを教育活動を進める。	

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。